

本庄村歌 (聞き取りしたもの)



本庄村歌

作詞 佐々木隆教
作曲 不詳

- 一、日本一の琵琶湖なる鮎、鱒のむれ上がる
あどがわぐち 安曇川口の楽天地、これぞ産声あげし村
- 二、一木一草一石土 祖先のたまもの御代の恩
一風一俗一行事 皆いわれあり由来あり
- 三、朝とく起きて田に湖に、時を惜しみて諸共に
おのがさちさち鋤に 得てこそ帰れ益良雄や
- 四、舟木の浜に千鳥なく 夜半も聞こゆる箴の音
金もとけなん夏の日も 蚕飼いいとなむおみな子や
- 五、分を守りて規律あり 礼儀を守り公徳を
とつくにひと 外国人に施さん これぞ我等の理想なる
- 六、天晴れ三千五百人 身を立て道を行いて
あつぱ 親の名をあげ我村の よき名を四方にとどろかせ

昭和初期本庄校歌としても広く子どもたちに愛唱されたものである。

(窓風会)

